

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0791000037		
法人名	社会福祉法人 湖星会		
事業所名	グループホーム オハナハウス		
所在地	福島県二本松市高田1番地1		
自己評価作成日	平成23年12月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	福島県郡山市亀田二丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成24年3月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成22年4月にオハナハウスがオープンしました。オハナハウスは、ハワイ語で家族、仲間、絆、のように、二本松の住み慣れた地域に安心して過ごしていただけるよう、本人様の思いを大切にし、家族様、職員、地域の方々との支えをいただきながら生活されています。個々の歩んでこられた人生を大切に思い、その方らしい誕生会を企画したり、個々の、できることを支援しながら役割を持って生活されています。生活の中、生き活きとした笑顔が見られる様になっております。また、同法人との交流を大切に行事には共に参加して交流を深めています。お客様の健康管理では、医療機関との連携、家族様との協力、職員間の連携に努めています。同じ建物内に小規模、認知デイがある為に日常的に合同行事を企画しながら交流を深めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人の他に事業所独自の行動指針を持ち、職員がそれに則り個々の目標を立てて、意欲的に利用者の支援に当たっている。家族との関係が断たれないように、季節ごとの衣替え、オムツや洗濯洗剤を届けて貰う等により、頻回な事業所への来所を自然に促し、家族を巻き込んだ支援が行われている。管理者と職員、職員同士の関係がよく、明るい雰囲気の中で、利用者が落ち着いて過ごしている様子が見られた。開設して2年の新しい施設であるが、地域の奉仕作業にも積極的に取り組むなど、地域に馴染もうと努力する姿勢が見られている。職員の殆どが、同一法人の特別養護老人ホームでの介護経験者であり、落ち着いて対応できているため、利用者の表情から安心して様子が見えた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、職員間で共有している。事業所の職員会議や、こやまケア委員会を中心に議題に取り入れながら話し合いの場で活用している。	目標を毎日唱和し浸透を図っている。介護場面では、トイレ通いが頻回な方や徘徊のある方に対し、排泄リズムや徘徊理由を丁寧に探り、本人に合わせて声掛け・誘導し、利用者を大切に考えて支援していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた地域で、顔なじみの店に買い物、理髪に出かけたり、継続して行っている。地区のお祭り参加では、顔なじみとなり継続して参加している。区長さんの協力を得ながら、夏祭りの案内、介護居室のチラシ等協力をいただいている。	町内会にも加入し、区長とは必要毎に連絡を取り合い地域の行事等へ積極的に参加している。昨年の施設の夏祭りでは、家族のほか地域住民の方も20数名の参加があり、徐々に地域に溶け込んできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での勉強会(介護教室)2カ月ごと開催今年度6回開催している。その中で認知症への理解を取り上げ家族様、地域の方々へ参加いただきながら理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の状況や、予定、審議事項を報告し、事業所に対しての理解及び意見をいただき事業所のサービスに努めている。	介護の勉強会を開いて欲しいという要望が出され、家族を対象に月一回程度開催している。また、ヒヤリハット等の報告の要望を取り入れるなど、出席者から意見を貰う事でサービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、職員には、運営推進会議に出席して頂き事業所に対しての理解及び意見をいただき事業所のサービス向上に努めている。	市直営の地域包括支援センター職員と随時連絡を取り、利用者支援に関する相談や施設の状況を伝える等のやり取りをしている。また、市からの依頼でキャラバンメイトの講師派遣などにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人との勉強会に参加し、共通認識を図っている。身体拘束委員会では、身体拘束をしないケアについて職員間で共有している。	夜間以外は施錠せず、徘徊者に対してはその行動を把握することで、行動抑制ではなく目配りして危険の無いように対応している。定期的に事業所内で研修会を開催し、意識を高めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人との勉強会に参加して高齢者虐待防止関連法について理解を図っている。職員会議等にて共通の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人との勉強会に参加し、制度の理解を図っている。現在は、制度を利用されている方はおりませんが、今後、職員会議等で状況について話をして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項の説明をきちんと行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や、運営推進会議で気軽に意見を出してもらえるように促している。	面会時等に意見や要望が出され、例えば受診は原則では家族対応だが、家族の都合が悪い場合等には、依頼を受けて職員が支援している。また、リハビリの要望があり法人の別施設で行える様計画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議時、面接などで職員の意見を聞き、話し合い、サービスに活かしている。	会議等で活発に意見が交わされ、職員の提案で利用者が選んだ映画をプロジェクターに映して鑑賞会を実施した。ケアについても、ある利用者のトイレ誘導の時間を2時間毎に変えてうまくいった事があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を年2回行い職員個々も努力いや、実績を確認している。職員のやりがいや質の向上の為、人材育成事業として階層別		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、職員の段階に応じた研修が受けれる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設2年のことから、管理者として研修を踏みながら現在に至る。今後は、ネットワークづくりに一層努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々お客様とのコミュニケーションを図り、本人様の思いに気付ける様に努めている。事業所会議等で職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や、アンケート調査(こやまケアアンケート年1回)などで要望などを聞きながら速やかな対応をしている。同事業所お客様、職員との関わる機会を持ち関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで待機されている方の家族が来所された際、見学してもらったり他の方の様子を見て頂き不安が無いか伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後方付けをお客様と共に行い、お客様を支えるだけでなく、職員もお客様に支えて頂き暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りなどで日々の様子をお伝えしている。面会の少ないご家族様にも、お客様の要望などにより、面会に来ていただける様に積極的に調整に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の人が訪ねて来られた際は、ゆっくりと過ごしていただけるように場所作りをし、お茶など召し上がりながらまた来ていただける様に声がけしたりしている。	面会者が多くそれを継続して貰える様、いつも明るく来やすい雰囲気迎えている。面会中の楽しそうな様子の写真を撮り渡す事で喜ばれている。馴染みの床屋へ行くのが楽しみな方は、毎回外出支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の進行に伴って行動障害が出てきたお客様に対して、お客様同士がトラブルのないような気配りサポートをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了し他事業所への入所されたお客様への面会を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との日々の会話の中から気づきや思いを記録に残す事で職員全体で把握している。	意向の表出が困難な利用者には「お客様気づき」シートを活用し、日頃の言動から心情を探る事に努めている。夫の墓参りの希望を言えなかった方に対し、分析し意向の表出を後押しした事で希望が叶えられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を元に、利用後も本人や家族に話を聞いて生活歴の理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様一人一人の24時間シート作りに取りくんだり日々のケース記録を残し職員全員で状態の変化についての把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望をきき、事業所会議等で職員で話しあい介護計画を作成している。毎月のモニタリングを実施し計画書の見直しをしている。	本人や家族、職員からの意見や情報を聞き、意向を重視した計画作成に努めている。職員が日常の様子を良く観察し記録に残し、それを基に毎月モニタリングを実施し、状態に合わせてプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所会議でのモニタリングでお客様の気づきや変化などの情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診をその本人の状態やご家族様の状況にあわせて柔軟に対応し施設対応したり同行したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のマッサージのボランティアを受け入れたりしているが地域資源の把握がまだ足りていないので今後もっと受け入れていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの入所前からのかかりつけの病院に通院しており、通院後の報告を当日のうちに行い家族様対応の方にも必要に応じて同行している。	利用者は皆希望通りに入所前からのかかりつけ医を受診できている。毎月の受診日を確認し、必要に応じて通院の支援もしている。また、付き添いした家族に診察結果を確認し情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化に気を配り、変化が見られた際には看護師、管理者に報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院の相談員と連絡をとったり入院の様子を見にいたり家族にも報告し早期退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例はないが法人の指針に沿って勉強会等で施設のあり方や心構えを確認している。	新人職員対象の研修等で法人の看取りの指針を活用し職員が理解できるよう指導している。利用者が重度化したときの対応については、契約時に契約書に基づいて対応可能な事を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、併設事業所との連携を図るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合防災訓練を実施しているが地域の方の参加まではできていない。	3・10月に利用者を変えて通報・避難訓練を併設事業所と合同で行っている。今後は地域住民の参加を得るため、運営会議等で検討し事前のお知らせや、施設の構造を知って貰えるよう働きかける計画がある。	法人内他施設での成功例などを参考にされるなどして、地域住民の協力が得られるよう、今後の取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の会話や関わりの中でプライバシーを損ねることがないように気をつけた対応をするよう事業所会議等でも話し合っている。	排泄誘導時はさりげなく静かに声掛けがされ、利用者が周囲を気にすることなくトイレに行けていた。水をこぼした方の失敗を、傍にいた職員がさりげなく片付けており、本人が気落ちしないように気遣いがされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切に、レクリエーションへの参加や入浴の有無など本人の希望を自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れは決まっているが、日々の過ごし方など一人一人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にあわせて化粧などを行っている。床屋や服も自分で選択している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の感想をお客様にきいたり食べたいメニューを取り入れたりしている。食事の準備や後片付けも一緒に行っている。	届いた食材の確認や配膳・片付けを手伝う等利用者が役割を持ち生き生きしていた。利用者の希望のメニューも取り入れている。職員と利用者が同じテーブルを囲み和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量のチェックをし記録し、その方に応じた食事形態の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人様に声かけし口腔ケアの介助、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人様のサインにより誘導する事によりできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の表情やしぐさから排泄のタイミングを掴み、記録に残し、そのデータを基に誘導することでトイレ排泄を促している。特に退院直後は、オムツになることが多いが、訴え時は即対応し、上記支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとり便秘の予防に努めている。医療機関からの下剤の調節、牛乳などを飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂が好きな方には最初にすすめたり、午後が良い方にはその方にあわせて対応し楽しみをもって入浴できるよう工夫している。	週2～3回、午前から午後にかけて入浴を実施している。そのほかにも、利用者から希望があれば対応をしている。今まではなかったが、夜も希望があれば対応を検討するとの事。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて休息して頂き眠れない方には職員と会話をしたり飲み物を提供したりして安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった際には併設の看護師に報告し注意点を申し送りしその後の情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞とり、食事の準備、選択たみ、掃除など一人一人に役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出を企画し、みんなで出かけている。個別の外出支援も計画し行っている。	普段から近所の散歩や買い物に行ったり同法人の特別養護老人ホームの行事にも参加している。映画鑑賞用のDVDをレンタルに出かけたりしている。また、急に化粧品が切れて買いに行きたいと言う女性利用者の希望に対し即対応したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は自分で持つことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への年賀状や手紙のやりとりをして交流を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のカレンダーを飾ったり季節の行事の写真を展示し環境作りに努めている。	田畑や住宅に囲まれた静かな環境である。広いスペースが確保され、大きな窓があり明るく外の景色も見渡せる。日報には、温度や湿度を記録する欄があり、常に快適な室内を保つように努めている。雛人形や桃の花を飾り季節感も演出されている。	利用者によっては、広いことで居場所の無い印象を与え易いため、現在のレイアウトの他に利用者の好みそうな、こじんまりとした空間作りも検討されと更に良くなると思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し気の合う方との会話ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大事にされていたアルバムや使い慣れたものを持ちこまれ安心して過ごせるよう支援している。	家族には、新しい家具ではなく自宅に近い環境を作るため使い慣れた家具の持ち込みを勧めている。思い思いに好きな犬の写真や趣味の作品を飾ったりしている。仏壇を持ち込み信仰を続けている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており物の配置に工夫し安全に生活できるよう配慮している。		